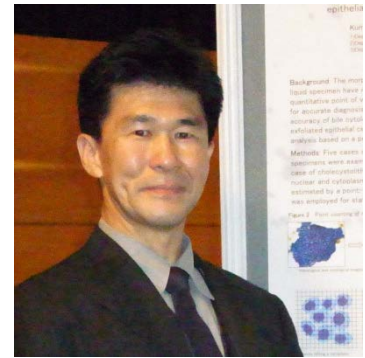


題名：病理解剖の実際と専門医試験Ⅲ型問題フローチャート  
作成の留意点

氏名：八重樫 弘

所属：岩手県立中央病院病理診断センター



Title : Practical key-points of autopsy and clues in flow-chart making  
of typeⅢ question of the Board certification examination

Name : Hiroshi Yaegashi

Affiliation : Department of Pathology, Iwate Prefectural Central Hospital

### 略歴 (Brief personal record)

昭和 59 年 東北大学歯学部卒業

同 東北大学大学院医学系研究科入学

昭和 60 年 同退学、東北大学抗酸菌病研究所病理学研究部門助手

平成 1 年 医学博士 (東北大学)

同 平成 1 年 8 月～平成 4 年 1 月まで、英国リバプール大学人体解剖学細胞生物学教室  
に留学

平成 11 年 東北大学大学院医学研究科病理形態学助手

平成 13 年 水戸協同病院病理科長

平成 20 年 岩手県立中央病院病理診断センター (病理診断科医長)

資格等： 歯科医師免許、死体解剖資格

日本病理学会口腔病理専門医・研修指導医、学術評議員

日本臨床細胞学会細胞診専門医

### 要約

病理専門医試験のⅢ型問題(剖検症例問題)は我々歯学部出身者のみならず全ての受験者にとって、大きなプレッシャーであろう。即ち、脳を含む全身臓器から病理所見を拾い上げる能力、臨床所見、肉眼所見を加味して病理診断を総合的にまとめる能力、病態や死因を考察する能力が問われているからである。近年はどこの施設でも病理解剖数が激減し、実際に剖検報告書を作成する機会がますます減少していることも要因の一つであろう。また、歯学部等歯科系の施設在籍者にとっては、問題に出るような一般的な症例の解剖を経験する機会がなかなか難しいという現状もある。

3回目となる今年のセミナーでは、はじめに病理解剖の基本的な事柄を概説し、その後で事前に配布した解剖例の資料をもとに少人数グループに分かれてフローチャートを作成し、各グループの発表、discussion を通して留意点を再確認することを目指したい。Workshop 形式を予定している。

※参加者にはセミナー1ヶ月前までに資料をCDにて配布いたします。参加者はPC、USBを持参されることを推奨します。顕微鏡の使用はありません。

## Abstract

In this seminar, firstly practical key-points of autopsy examination will be showed briefly, and secondly clues in flow-chart making of type III question of the Board certification examination will be discussed in a workshop style.

Autopsy data in a CD will be sent by mail in advance. All participants are recommended to bring their personal computers and USB memories.